

萬福寺の行事はどなたでも参加できます。



昨 年12月14日(月) 午前11時から本尊阿彌陀如来三尊仏の沐浴式(お身拭い供養)が、安本利正ご住職様を導師に執り行われました。多くの参詣者が出席するなか、ご法要に続いて、ご住職様が御開帳なつた三尊仏を木綿の浄巾でお清めし、1年間の塵を払い、新年を迎える準備を整えられました。

ご住職は法話で、「ご本尊様は、三国伝来(インドでつくられ中国を経て伝えられた)と縁起にあります。この話は江戸後期から始まったことで、私は梶原家三代景氏が『馬込村へ阿彌陀堂と墓を建立す』と寺誌にある1249年から56年(建長年間「鎌倉中期」)の阿彌陀堂建立時に、苦勞を重ねてこの地で铸造したものと考えます」と自説を30分にわたってご説明くださいました。最後に「ご

※ 本尊阿彌陀如来三尊仏の沐浴式・御開帳

ほんぞんあみだによらいさんぞんぶつ
もくよくしき かいちよう

平成27年12月14日(月)



本尊様は善光寺式阿彌陀三尊と呼ばれ、脇侍の観音菩薩、勢至菩薩様が胸の前で両手を重ねて宝珠を持っているのが特徴です。ぜひ覚えてお帰りください。本日はご参詣ありがとうございました」と、今となつては最後の法話を締めくくられました。



半 月が夜空に浮かぶ12月31日、午後11時から「歳末諷経」が、引き続き正月の法要「大般若会御祈禱」が安本利正ご住職様式師のもと執り行われました。ご本尊御開帳のなか、法要では『大般若波羅蜜多經』全600巻が3人のご僧侶により転読(経文を扇状にめぐりながら読誦)され、今年1年の無病息災、祈願成就が御祈禱されました。

その後、鐘樓門上で恒例の鐘つきが行われました。護持会はじめ近隣の400名を超える皆様が参詣され、用意された大型ストーブやお寺で前日から準備した豚汁、甘酒で暖をとりながら幾重にも並び、それぞれの思いを込めて合掌し鐘をつきました。12時前から始まった鐘つきも1時半過ぎには無事終了、馬込の新年も静かに明けていきました。

なお、正月大般若会御祈禱は、2日、3日にも行われました。

※ 除夜の鐘つき

じやかな
だいはんにやえ ぎとつふぎん

正月大般若会御祈禱諷経

平成27年12月31日(木)
平成28年1月1日(金)



甘酒・豚汁のお振る舞いが好評でした



鐘樓門前を取り囲む参詣者の波